会　議　録

会　議　名	第８回東浦町まち・ひと・しごと創生総合戦略検討委員会	
開 催 日 時	平成 30 年８月 30 日（木）　午前 10 時から正午まで	
開 催 場 所	東浦町役場西会議室	
出　席　者	委員	委員長　高野　雅夫 委員 林　加代子、戸張　里美、中瀬　進吾、平野　智子、 深津　幸雄、万木　和広、久米　義金
	事務局	町長、企画政策部長、企画政策課長、企画政策課主幹、 企画政策課課長補佐兼企画政策係長、企画政策課主査、 企画政策課主事
議　　題 （公開又は非公開の別）	１　東浦町まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について ２　地方創生関連交付金の効果検証について	
非公開の理由 （会議を非公開とした場合）	―	
傍聴者の数	１名	
審 議 内 容 （概　要）	議題の審議内容は、別紙のとおり	
備　　考		

審 議 内 容（概　要）
１　町長あいさつ 　平成27年度に「東浦町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、平成28年度以降進捗状況を報告している。今回は第８回目の検討委員会となる。計画期間は平成31年度までとなっていることから、今後も年１回検討委員会を開催し、進捗状況を確認していきたい。 ２　議題 （1）東浦町まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について（資料１） 　事務局より「資料１」に基づき説明を行った。 　主な意見は以下のとおり ア　パートナーシップ推進事業について、NPO の立ち上げに助成金を支払っているのであれば、その後の活動実績についても行政として把握しておくべきである。 イ　パートナーシップ推進事業のテーマは、「居場所づくり」など、毎年テーマがあまり変わらない。「居場所づくり」について企画書を提出したことがあるが、役場での考え方としては拠点を作ることとのことだった。拠点を作ることは難しいため別の方法を検討したが、役場と折り合わず結果断念することとなった。パートナーシップだけではなく、他の分野でもそうだが、毎年同じテーマだと人が集まらない。テーマを幅広くしていくと、それに引っかかる人が出てくると思う。 ウ　一つの課で割り切ってやろうとすると、逆に応募する人がその担当課に依存し、やれることが制限されてしまう。複数の事業（例えば、空き家、景観、福祉、居場所づくりなど）を複合的にやると、巻き込める関係者の幅が広くなるのではないか。今回の資料では事業を単体で評価しているため、効果が検証しきれていないように思う。役場内にプロジェクトチームをつくるなどして、課を跨ぐ事業を進めようとしているか。 ⇒　パートナーシップ推進事業は、今町が必要と考えている事業に協働してくれる団体を募集しようという取り組み。テーマは毎年４～５つ、各課に照会をした上で協働推進課が設定している。したがって、協働推進課だけでテーマを検討し設定しているわけではない。また、どんな事業でも応募してもよいという考え方もあるが、現在、社会福祉協議会がこのような形式で事業をしていることから住み分けをしている。 エ　KPI の「行政の行う事業に連携して活動する目的型組織の団体数」では、どういったものを数えているか。 ⇒　数え方については確認する。ボランティアセンターに登録している団体数については、新規に登録されるものもあれば解散するものもあるが、少しずつ増える傾向にある。 オ　このような会議に参加することによって、「地域のことに関連して何かできるのではないか」という思いを育ててもらっていると思う。細かいことは行政ではできないため、私が何かできればと思っている。その中で、制約がかかると断念してしまうため、やりたいと思っている人への窓口が開けると良い。 ⇒　行政としてもハードにこだわっているわけではないため、この件に関しては認識が至らなかった。テーマや解釈については、もう少し緩くできると良いと感じた。 カ　役場の下請けでは協働ではないし、お金を出すから自由にやってくれというのも協働ではない。コミュニケーションをとり、一緒に作り上げていくというプロセスが協働であると考えている。新しい取組、考え方に対して、役場側が「そういう考え方があるのか、やっ

てみよう」というスタンスでいてもらえると良い。

キ　子どものコミュニティ活動への参加について、実績を見るとイベントの手伝いばかりであり、これを参加と捉えるのは少し違和感がある。子どもが企画を考えたり、それを実現させるなど、もう一歩進んだ参加ができると良い。

ク　パーク＆ライド事業について、イオンの事業に乗っかっていたり、景観に関する会議でこの件の話が出てこなかったりと、町としての認識が低いように思う。ただ車が停められるというだけでは意味がなく、車を停めて、他の場所でこんなことができるというストーリーがあると、この事業やそれに伴うまちづくりが進んでいく。コミュニティセンターの駐車場は利用者以外は停めないこととなっているが、休日などは空いているため、パーク＆ライド事業で活用できるように思う。

ケ　緒川地区はパーク＆ライドの需要があると思うが、それに対する適正な供給がない状況である。イオンのパーク＆ライド事業を検証して改善していくのは面白いと思う。

コ　パーク＆ライドの数値はこのまま継続しても仕方ない数値なので、修正が必要。イオンにおまかせであれば町としてKPIに挙げるものでもない。

サ　ふるさとガイドボランティアについて、会議が毎週火曜日の昼に開催されており、仕事をしている若い人は参加が難しい。現在の参加者は高齢者が多いため、夜等での開催を要望したが対応してもらえていない。そのため、興味があっても若い人たちが参加できない現状がある。歴史が好きな若い人が参加すれば団体の活動も活性化すると思う。

シ　図書館の来館者数が減少してきているのが気になる。

⇒　全国的に図書館離れの傾向があるようだ。また、新しく、立派なものができるとそちらに流れてしまう傾向もある。

ス　大府市は図書館の利用が多いが、東浦町と大府市で本を借りる場合の大きな違いは、大府市は自動で手続きできるということ。東浦町の図書館の職員に話した時には対面が売りだと言っていたが、大府市は両方できるため、それを売りだと思い込まないほうが良い。

セ　図書館はいろいろな取組みをやっているが、それでも減っているという現状をしっかりと分析して行動しなければいけない。

ソ　図書館は文献を調べるところでもある。田原市ではウィキペディアタウンという取組みをやっている。町のことを歩いて調べ、図書館の文献で裏付けをとってウィキペディアにアップするようなイベントである。信頼性の高い活字を確認するということを改めて見直すのも大切だと思う。また、ふるさとボランティアが調べたようなことを図書館の文献と照らし合わせて、新たな資料として図書館に収めていくような取り組みをしていくのも良いのではないか。

タ　東浦町の図書館でもウィキペディアの講習等をやっているが、ハードルが高い話でもあるので、ハードルの低い取り組みと織り交ぜてやっている。それを知っているからこそ、来館者が減っているのが残念。

チ　地域資源を生かした魅力ある町をつくるとあるが、内容が伴っていないことが残念。ブランディングなどがもう少しあっても良いかもしれない。

ツ　創業支援セミナーは大府市と一緒に実施しているが、東浦町の人は５名以下。おだい市の中にも創業の志がある方がいると聞いている。

テ　おだい市の中にそのような志を持った方がいるのは事実であるが、一つの収入源としてやりたいという程度で、生計を立てようというレベル感ではない。創業支援セミナーに参加した人もいるが、やりたいこととのギャップがあり、手が届かないと感じ、創業にまでは至っていない。

ト　女性やひとり親の就労支援もそうだが、必要とするスキルと開催されている講座のミスマ

ッチがある。同じ投資をするのであればやる内容を使えるものに修正するべきである。おだい市でも、大それた創業をしたいという人はかなり少数派で、出店の延長線上でできたらいいなという話。これを緩くやれるような環境もあると良いと思う。

ナ　企業からすると人がいないので、労働窓口でのあっせんが必要。情報誌の配布だけではなく、人が人を結び付けなければマッチングは難しい。

ニ　６次産業化について、農園で採れたトマトを委託してジャムやジュースに加工して売っている自らの経験から言うと、６次産業では儲からない。６次産業化だけで事業を成り立たせることは困難であり、加工施設を拡大したという話は聞いたことがない。農家としてはハードルが高い。

ヌ　年間を通じて供給するのも難しい。

ネ　農家レストランという話もあるが、継続して他のレストランと競争して確立していくのは難しい。６次化の補助金もあるが、もともと強い思いがあってやるのならば良いかもしれないが、補助金が出るからと飛びつくと成功しない。

ノ　なかよし学園の入園者数が知りたい。発達障害やグレーゾーンで小学校入学時になかよし学園に入る子どもの数がわかると、入学前の子どもたちへの対応方法を考えることができる。

⇒　29 年度 35 人、30 年度 39 人である。30 年度の年齢別は、２歳児 11 人、３歳児 23 人、４歳児３人、５歳児２人。症状別は、多動６人、自閉５人、ダウン症１人、発達遅滞２人、言葉遅れ 18 人、その他７人。

検診で保健師が気になった子については、きりんの会、こぐまの会などの集団指導等を行っている。

（2）地方創生関連交付金の効果検証について（資料２）

事務局より「資料２」に基づき、いずれの事業も効果があったものと考えている旨の説明を行った。

主な意見は以下のとおり

ア　知多半島全体の観光客数が増えたが、要因は何かあるか。

⇒　分析はまだできていないが、「ちたんぷ」という施設を回るスタンプラリー事業を実施していることが要因となっているかもしれない。

イ　町内では、水谷金物店、クールドボルドー、ナカセ農園、於大公園等が掲載されている。スタンプを集めると、抽選で景品がもらえる。

ウ　観光について、東浦町には宿泊施設や観光施設があるわけではなく、東浦町で観光を進めるということがどういうことかわかりにくい。むしろブランディングが大事ではないかと思う。

エ　東浦町というよりも知多半島のほうがブランディングしやすいような気もする。

オ　観光資源次第であるが、観光資源の良さを上手に伝えられていないと感じる。

カ　観光資源自体を育てていくという観点も必要。

キ　行政ができる範囲で、広告の支援等があると安心感も付加されるような気がする。

正午閉会